

こども・若者向けアンケート調査 内容・結果

1. 調査の目的

子ども基本法において、こども施策の基本理念として、こども・若者の年齢及び発達の程度に応じた意見表明機会と社会参画機会の確保、その意見の尊重と最善の利益の優先考慮が定められています。また、こども施策を策定、実施、評価するに当たって、こども・若者の意見を幅広く聴取して反映させるために必要な措置を講ずることが国や地方公共団体に義務付けられています。

本町でも、こどもや若者の意見を聴いて施策に反映することやこどもや若者の社会参画を進めることにより、こどもや若者の状況やニーズをよりの確に踏まえることができ、施策がより実効性のあるものになることや、こどもや若者にとって、自らの意見が十分に聴かれ、自らによって社会に何らかの影響を与える、変化をもたらす経験は、自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高めることにつながり、民主主義の担い手の育成に資することから、こども・若者の意見を聴取しました。

2. 調査対象

30代までの町内在住者

3. 調査時期

令和6年11月5日～15日

4. 調査方法

アンケートフォーム作成支援ソフトにて作成後、町ホームページにて公開。

町内中学校に通う生徒へは学校を通じて協力依頼文をURL付で配布(879部)。

5. 調査結果

●有効回答数:91名(95名回答のうち、40代以上3名、年齢無回答1名は有効とせず)

●18歳未満回答項目分(63名)

○「家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか」では、「いる」が12.7%となっています。また、「いる」と答えた人に、「あなたが行っているお世話の内容を教えてください」とたずねたところ、「見守り」が3人の他、「家事」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、「外出の付き添い」、「その他」がそれぞれ1人となっています。同様に「いる」と答えた人に、「お世話をしている頻度を教えてください」とたずねたところ、「ほぼ毎日」が5人、「週1～2日」が1人、「その他」が2人となっています。

- 「家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか」で「いる」と答えた人に、「お世話をしていることで、やりたいけどできていないことはありますか。」とたずねたところ、「特にない」が4人で最も多く、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」がそれぞれ1人となっています。
- 「家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか」で「いる」と答えた人に、「誰とお世話をしていますか。」とたずねたところ、「母親」が4人で最も多く、「父親」、「きょうだい」が3人、「福祉サービス（ヘルパーなど）を利用」が2人となっており、「自分のみ」と回答した人はいませんでした。
- ヤングケアラーについては、「聞いたことがあり、内容も知っている」が46.0%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が36.5%、「聞いたことはない」は17.5%となっています。

●18歳以上回答項目分(28名)

- 「結婚支援事業として、葉山町が最も実施した方が良いと思うことはなんですか」では、「新婚世帯への経済的補助」が64.3%で最も多くなっています。

●対象者全員回答項目(91名)

- 「あなたはひきこもりの状態になったことがありますか」では、「現在なっている」が1.1%、「過去なったことがある」が4.4%と、「ひきこもりの経験がある」人が全体の5.5%みられます。「ひきこもり状態の方にどんな支援が必要だと思いますか」では、「悩みを話し合い、集える場所の紹介や設置」が54.9%で最も多く、次いで「気軽に相談できる窓口」が47.3%、「就労・就学支援」が26.4%となっています。
- 「こども・若者向けの施策で町に特に力を入れて取り組んでもらいたい事業は何ですか」については、「ヤングケアラー対策」が30.8%で最も多く、次いで「ひきこもり対策」と「貧困対策」がともに23.1%、「結婚支援事業」が16.5%などとなっています。